

総括評価表

(学校名：富岡東高等学校羽ノ浦校) (No.1)

		自 己 評 価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標 (と活動計画)		評 価		学校関係者の意見	
		評価指標		評価指標の達成度	総合評価		
I 生涯学び続ける力を育成するため、自主的・主体的な学習習慣を確立させる。	《全校レベル》 I 学習習慣を確立し、学力の定着・向上を図るために主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。又、世の中の出来事に関心を持って主体的に行動できる人材を育成するため、主権者教育の創意工夫を図る。 《下位組織レベル》 ①相互参観授業の実施や教員研修会、授業評価を通じて、教員の授業力の向上を図る。 [全教員] ②基礎学力の定着や思考力の育成に繋がる週課題を設定する。 [看護科] ③自主的学習習慣を支援する課題を設定する。 [専攻科] ④各テスト(看護科目実力テスト、課題テスト、実習前総合評価、看護科目確認テスト、基礎看護技術実技テスト、模擬試験)の計画的実施により、生徒の目標設定を明確にさせ、個別指導の充実を図る。 [教務課、進路指導課、看護科、各教科担任、HR担任] ⑤自主的・主体的学習活動を支援するICT機器の活用方法を研究する。 [全教員] ⑥主権者教育の創意工夫を図り、政治や選挙への関心や政治的事象への関心を高める。 [全教員]	①職員による相互授業参観を年間3回(各学期1回程度)、生徒学生による授業評価を12月末に1回実施する。 ②基礎学力の定着や思考力の育成に繋がる週課題を充実させる。また、設定テーマによる調べ学習を各学期1回以上実施する。 ③授業評価において、「家庭学習(予習復習・課題)ができた」が70%以上をめざす。 ④授業評価において、「発表や質問、返答が積極的にできた」が70%以上をめざす。 ⑤学年末総合成績の平均が60点未満の生徒数を1クラスにつき4名以下にする。 ⑥ICT機器の活用について研修やOJTを各学期に1回(計3回)行うことでスキルアップを図り、自主的・主体的学習活動を支援する。 ⑦授業評価において、「政治や選挙への関心や政治的事象への関心が以前より高まった」が70%以上をめざす。	①ICT機器を有効活用した授業展開を行い、思考力の育成を図る。又、自主的・主体的な学習の習慣化を支援する活用方法を工夫する。 ②定期考査や模擬試験返却後の個人面談で、個々に応じた助言や指導を充実させる。 ③学年末成績平均が60点未満の生徒については、保護者を交えて次年度への学習の改善点や、学校生活についての面談を行う。 ④職員による相互授業参観や、生徒・学生の授業評価アンケートを実施し、授業改善につなげる。 ⑤主権者教育に関するホームルーム活動や学校行事等を年3回以上実施する。	当初の計画通り、各学期毎に職員による相互授業参観を、12月末に生徒学生による授業評価を実施した。 基礎学力の定着や思考力の育成に繋がる課題内容の精選を行った。また、設定テーマによる調べ学習を各学期1回以上実施した。 看護科80%、専攻科89%であり、ほとんどの者が家庭学習に取り組むことができた。 看護科80%、専攻科89%であり、ほとんどの者が主体的に取り組むことができた。 学年末総合成績の平均が60点未満の生徒数は平均して1クラスにつき1.7名であった。 ICT機器の活用について研修や研究授業毎のOJTを計4回行うことで、教職員のスキルアップを図った。 生徒・学生の「政治や選挙への関心や政治的事象への関心が以前より高まった」は88.3%であった。	(評定) A (所見) 「ICT機器を有効活用し、わかりやすい授業展開を行うことができている」は、生徒93%保護者87%となり、昨年度より効果を上げることができている。進路指導に関しても、概ね生徒・学生の希望に応じた指導ができてきている。主権者教育では、生徒・学生の「政治や選挙への関心や政治的事象への関心が以前より高まった」は昨年より8.9%上回ったが、保護者は70%と昨年と同じ値だった。	○昨年度に引き続き、十分な課題の質と量を満たしている。又、考え方を習得させることが重要であり、求められる思考力や判断力をいかに伸ばしていくかが、これからの鍵となる。 ○ICTの活用は様々に工夫できている。授業内容を更に工夫し、学生のスキルや探求・プレゼン力を伸ばして欲しい。 ○外部講師の授業も取り入れ、学生のうちから、社会への入り口教育に取り組まれていることは素晴らしい。5年一貫教育故に、社会に出るのも早いので、それを意識した教育を継続実践して欲しい。 ○教育指標も、更にグレードアップして行って欲しい。	○学生全員が国家試験に合格するためには、各科目において60点付近の点数帯の者の実力を付け、これまでに以上に基礎力を向上させる工夫が必要となる。そのため、自主的な家庭学習の取り組み向上が非常に重要である。 ○ICT機器を使用した授業は、全ての履修範囲で、全ての生徒に対して個別最適化し思考を深めるには難しい点がある。そのため、対話的手法やグループ学習等を効果的に取り入れ、成績下位の生徒を取り残さない授業の工夫を継続して行いたい。 ○これから社会に出る学生・生徒の主権者意識や、政治・選挙への関心を更に高めることができるように、プログラムの充実を図りたい。